開倫塾ニュース
５月号
ご案内

開倫塾

目　次

・開倫塾で「自覚」を高め、「勉強の仕方」を身につけ「成績」を伸ばそう
　－新学年スタートにあたって塾長からのメッセージ－
開倫塾ニュース 2009 年 5 月号… P.1

・開倫塾ニュース発行の目的(ねらい)
… P.2

・学校から教科書を頂いたら
　－徹底的に予習してしまおう－
開倫塾ニュース 2007 年 4 月号… P.6

・中間試験や前期試験で、全科目 100 点を取ってしまおう
　－定期試験は狭く深くに徹して満点を目指そう－
開倫塾ニュース 2007 年 5 月号… P.8

・「練習、練習、また練習」で偏差値 60 突破を
　－「音読」「書き取り」「計算」練習の徹底が、基礎学力「定着」のポイント－
開倫塾ニュース 2007 年 6 月号… P.10

・高２、中２、小５生も受験校の早期決定を
　－入試合格を確実にするために－
開倫塾ニュース 2008 年 7 月号… P.12

・来年春の希望校合格のために
　－「自覚」を持って、１年間机に向かおう－
開倫塾ニュース 2008 年 5 月号… P.13

・「定着」で学力の飛躍的向上を
　－「音読」、「書き取り」、「問題練習」の徹底がポイント－
開倫塾ニュース 2007 年 3 月号… P.15

・持続可能な資本主義とは
　－ローマ・アスペン研究所で考える－
月刊「私塾界」2009 年 5 月号… P.17

・一生勉強、一生青春
　－ Commencement(コメンスメント)、卒業は人生のスタート－
東日本高等学院卒業式来賓祝辞… P.19

・働くとは何か
　－働きがいのある人間らしい仕事に就くために－
福島県立須賀川桐陽高等学校出張授業資料(2009 年 4 月 23 日)… P.20

・刑務所に教えに行って
　－持続可能な社会は基礎教育から－
髙井伸夫法律事務所事務所報原稿… P.22

・新学年の準備
　－捨てなければ得られない－
CRT 栃木放送「開倫塾の時間」放送内容資料… P.23

・新シンクタンクに期待する
読売新聞 栃木版「とちぎ寸言」(4 月 7 日)原稿… P.24

この塾長通信は、毎月１回「開倫塾ニュース」とともに、塾生・保護者・地域社会・ビジネスパートナー・全教職員の皆様にお送りしているものです。

開倫塾
塾長　林　明夫

まずは開倫塾ニュース５月号の巻頭言をゆっくりお読み下さい。

開倫塾で「自覚」を高め、「勉強の仕方」を身につけ「成績」を伸ばそう
－新学年スタートにあって塾長からのメッセージ－

Q：新学年のスタートにあたって開倫塾の塾長として、塾生の皆様に一言メッセージをお願いします。

A：(林明夫。以下省略)開倫塾の塾生の皆様、新学年に御進級おめでとうございます。新しい学校に入学なさった皆様、御入学おめでとうございます。開倫塾の代表として、心よりお祝い申し上げます。

皆様が「開倫塾で学ぶ目的」は、おそらく２つあると思います。その１つは「学校成績の向上」、もう１つは「希望校合格」。そのための「学力の向上」であると私は思います。

学年のはじめに、「学校成績を向上」させ、「希望校に合格」するために、どのように「学力の向上」をはかったらよいかを皆様とご一緒に考えてみたいと思います。

Q：どうしたらよいか、できるだけ具体的にお話下さい。

A：「学力を身につける」上で一番大切なことは、「本人の自覚」です。「自覚」をもって勉強することが最も大切です。何のためにこの１年間勉強するのか、勉強する目的をしっかりもつことが大事です。

その上で、勉強や生活の上で自分の得意とすること、苦手とすることをはっきり「自覚」すること。得意なことは、誰に遠慮することなくどんどん伸ばすこと。苦手にすることは、よく「理解」していないこと、十分わかっていないところにまでできるだけ遡(さかのぼ)って、あせることなく、ゆっくりやり直すことです。

もしできれば、学校を卒業してからどのような生き方をしたいのかを少しずつでも考えることをお勧めします。その上で、この学校で今勉強するのはどのような意味があるかを考えることです。

１～２年後に上の学校への受験を控えている方は、希望する学校に進学したらどのような勉強をするのか、どのような生活をしたいのかをよく考えることです。

「自覚」をもつことは、今やっている勉強に勢いをつけます。「ターボエンジン」をつけたと同じになります。

「自覚」が足りないと、毎日がつまらなくなって、何のために生きているかわからなく感じることすらあります。

Q：「自覚」をもつためには、どうしたらよいでしょうか。

A：世の中のことをよく知ることです。そのために私は、小学生は20分、中学生は40分、高校生は60分以上新聞を毎日よく読んで批判的思考能力を身につけることをお勧めします。

本をたくさん読むことも、世の中のことを知る上で役立ちます。文庫(ぶんこ)本や新書(しんしょ)本がとても読みやすくなっていますので、開倫塾の塾生の皆様は毎週１～２冊は文庫本か新書本を読むことをお勧めします。

「伝記(でんき)」を読むといろいろな人の生き方がよくわかりますので、「自覚」をもつのに役立ちます。

いろいろな人のお話をじっくり聞くことも、「世の中」を知り、自覚を高める上で役立ちます。「自

分以外、すべて師(先生)」と思い、人の話をよく聞く能力を身につけて下さいね。

Q：「自覚」の次に大事なことは何ですか。

A：「学び方」を身につけることです。ものごとを一度うんなるほどと「理解」するにはどうしらたらよいか。一度「理解」したことを正確に「身につける」にはどうしたらよいか。「理解」し「身につけた」ことを使い、定期テストでよい点数をとったり、希望校に合格するだけの偏差値を確保した上で希望校に合格するにはどうしたらよいか。実際の生活や仕事で役立てるにはどうしたらよいか。

「学び方」を学ぶ能力を身につけることが第 2 番目に必要です。これを英語では、Learning To Learn(ラーニング・トゥ・ラーン)といいます。

開倫塾では塾生の皆様に「学習の 3 段階理論」をお伝えしていますので、皆様自身の学び方を身につけるために是非活用して下さいね。

Q：最後に一言どうぞ。

A：言い忘れましたが、学力の高い人は読書量が多いように私には思えます。新聞も、毎日なめるように読んでいます。

学校や塾の授業をよく聞き、よくノートを取り、わからないところはよく質問。授業が終わると、音読練習、書き取り練習、計算・問題練習をくり返しています。

過去に出題された問題は、5 ～ 6 回やっています。是非おためし下さいね。

今年 1 年どうかよろしくお願いいたします。

開倫塾ニュース 2009 年 5 月号巻頭言－ 2009 年 3 月 22 日記－

・マニー株式会社(ジャスダック・Jストック手術用縫合針製造)社外取締役
・宇都宮大学大学院工学研究科客員教授　　・栃木県社会教育委員

開倫塾ニュース発行の目的(ねらい)

Q：開倫塾ニュース発行の目的(ねらい)は何ですか。

A：(林明夫。以下省略)開倫塾は、1979 年 9 月に栃木県足利市で創業され、お陰様で 2009 年秋で創業 30 周年を迎えます。開倫塾では、1989 年 1 月から開倫塾ニュースを創刊し、毎月 1 回発行。お陰様で 2009 年 1 月号で創刊 20 周年を迎えています。

「開倫塾ニュース」を毎月 1 回発行する目的(ねらい)は、開倫塾の教育目標の 1 つである塾生お一人お一人の「自己学習能力の育成」のためであります。

「自己学習能力」つまり「自分で学習する能力」を開倫塾で学習する期間に少しでも身につけ、まずは学校成績を向上させ、次に自分の希望する上級学校に進学を果たしてもらいたい。できれば、開倫塾で学習する間に身につけた「自分で学習する能力」を上級学校に進学後、また、社会に出てからも役立ててもらいたい。皆様お一人お一人の「自己学習能力の育成」にお役立ちするために、開倫塾はこの世の中に存在します。また、この「開倫塾ニュース」はそのための具体的なツール(道具)と考えています。

読者の皆様には、是非積極的な御活用を期待申し上げ、また、お願い申し上げます。

学習の３段階理論とは

Ｑ：なぜ「自己学習能力の育成」つまり「自分で学習する能力」を「身につけること」は大切なのですか。開倫塾では、どのような方法を勧めているのですか。

Ａ：「学校の成績を向上」させ、自分の「希望校へ進学」するために、開倫塾では学習を 3 段階に分けて考えます。まず「学習の第 1 段階」として、学校や開倫塾での授業(講義)の予習の仕方、授業の受け方、授業後のノートの整理の仕方をまずは身につけ、よく「理解」しなければなりません。次に「学習の第 2 段階」として、予習や授業で一度「理解」したことを正確に身につける、つまり「定着」させるための具体的な作業の仕方を身につけることが必要です。

例えば、

(１)一度「理解」したことを何も見ないでスラスラ口をついて言えるようにするには、「音読練習」(声を出して何十回、何百回も読む練習)が有効です。

(２)口をついてスラスラ言えるようになったことは、正確に書けることが求められます。そのためには、「書き取り練習」(何回も、何十回も紙に書いて覚える練習)が役に立ちます。

(３)計算や問題については、授業や自習をして一度なぜそのような答えになるのかを十分「理解」した計算や問題は、一度その計算や問題を見た瞬間に「パッ、パッ」と条件反射で正解が出るようにしておくと便利です。

①「2 × 3」という計算についていえば、2 に 3 をかけるということはどういうことかよくわかり、なぜ「6」という答えが出るかが十分わかったならば、「2 × 3」という計算問題を見た瞬間に条件反射で「6」という正解が出るまでにしておいたほうがよいということです。

②「日本国憲法の 3 大原理は、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義である」ということを、小学校 6 年生の社会、中学校 3 年生の公民、高校 1 年生の「現代社会」、高校 3 年生の「政治経済」で学習します。

(ア)学校の授業や自分で予習・復習をして、「日本国憲法」の意味、「3 大原理」の意味、「国民主権」の意味、「基本的人権の尊重」の意味、「平和主義」の意味が「うんなるほど」とよくわかり、最終的にはこの文全体の意味が「理解」できたらどうするか。

(イ)この文を何回も何十回も音読すること(声を出して読むこと)で、何も見ないでスラスラ言えるようにすること。スラスラ言えるようになったら、何も見ないで正確に書けるようになるまで何回も何十回も書き取り練習をすること。

(ウ)正確に言え、書けるようになったら、問題練習をしてみる。

「日本国憲法の 3 大原理は、[　　]、[　　]、[　　]である」という問題があったら、まずは自分でやってみる。

なぜそこに「国民主権」、「基本的人権の尊重」、「平和主義」という正解が入るか十分に意味がわかったら、この問題を見た瞬間に「パッ、パッ」と条件反射で正解が出るように

なるまで「問題練習」を繰り返す。

③このように、一度学校や開倫塾の授業で学習した「計算」や「問題」は、なぜそのような解答になるのかを十分に「理解」したなら、問題を見た瞬間に「パッ、パッ」と正解が出るようになるまで「計算・問題練習」を繰り返すことが大切です。

(４)最後に、学習の 3 段階として「応用」の段階があります。「応用」の第 1 は、学校のテストで 100 点を取り、希望する学校の入学試験で合格点を取るということです。そのためには、どうしたらよいか。

①学校や開倫塾での授業、自分で行う予習や復習で「うんなるほど」と十分「理解」した内容を、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の「3 大練習」(これを開倫塾では「定着のための 3 大練習」と呼んでいます)で、まずは正確に身につける。

② 3 大練習で正確に身につけた上で、「過去に出題された問題」(これを「過去問」といいます)と「出題が予想される問題」(これを「予想問題」といいます)に取り組む。

＊「理解」も「定着」もしていない内容について、いきなり「過去問」や「予想問題」をしても何の意味もありません。単なる「時間つぶし」です。十分に「理解」し、「定着」させてからにして下さいね。

③(ア)「過去問」や「予想問題」を実際に解いてみて、間違えたところがあったら、なぜ間違えたのか、その原因を分析する。よく「理解」していなかったからできなかったのか、うろ覚え、つまり「知識が正確に口をついてスラスラ言える」まで身についていなかったからできなかったのか、正確に書けなかったからできなかったのか、基礎的な計算・問題練習が不足していたからできなかったのか、大学入試レベルの応用問題の練習が不足していたからか。その原因を自分でよく分析することです。

(イ)なぜ間違えたのか、その原因を分析して、もし「理解」が不足していたら「教科書」や「授業中のノート」、「参考書」、「辞典」などを用いてもう一回「うんなるほど」と十分によくわかる、つまり「理解」するまで自分で学習する。どうしても「理解」できなければ、学校や開倫塾の先生に遠慮なく質問することが大切です。

(ウ)「理解」はしているけれども、「理解」した内容が十分身につけていないことが原因で間違えたことがわかったら、3 大練習、つまり「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」のうちで必要な練習を何十回、何百回も繰り返す。

(エ)「理解」「定着」はしているが、「応用力不足」が原因でできなかったと分析したならば、「応用問題」をレベルの低いものから順にやってみる。

(オ)これを、開倫塾では「誤答分析(ごとうぶんせき)」といいます。「理解」「定着」したと自分で思っている内容でも、「過去問」や「予想問題」を実際に解くと間違えることがあります。そんなときには、この「誤答分析」が非常に有効です。間違いを放っておくと、

同じ間違いを繰り返します。一度間違えた問題は二度と間違えないこと、「同じ誤りは繰り返さないこと」が大事です。

(カ)開倫塾や業者の「模擬試験」を受けた場合も同じです。模擬試験が終了したらその日のうちに、この「誤答分析」を自分で徹底的に行って下さい。なぜ誤ったのかの分析をした上で、不足した「理解」や「定着のための 3 大練習」をその日のうちに全科目ともできるだけ行って下さい。

(５)ただ、「学校のテストで 100 点満点を取る」こと、「希望する上級学校の入学試験に合格するだけの合格点を取る」ことだけが、「応用」力をつける目的ではありません。「学習の 3 段階目」の「応用」の第 2 として、「実際の生活に役立てる」ことが大切です。買い物に行き、お金を支払い、おつりを正確にもらうこと。自分の収入の範囲内で支出をすること。新聞をよく読み、世の中のことをよく知り、自分の目の前で発生している様々なことがらを批判的に見る能力を養うこと(オレオレ詐欺の被害者になる人はニュースをよく読み込んでいないと私には思えます)。学校で学習したことは、教科も教科以外のことも、社会に出てすべて役に立ちます。

Learning To Learn(学び方を学ぶ)とは、「学習の 3 段階理論」を身につけること

Q：開倫塾ニュース５月号の巻頭言でいうLearning To Learn(学び方を学ぶ)スキルを身につけるとは、開倫塾のいう「自己学習能力の育成」つまり「学習の３段階理論」を身につけるということですか。

A：「学び方」にはいろいろな「方法」があります。開倫塾では、学習を「理解」→「定着」→「応用」の「3 段階」に分け、その各々の「段階」にふさわしい学び方を考え、それを「学習の 3 段階理論」といっています。

これはあくまでも 1 つの考えですので、どうか皆様は、この「学習の 3 段階理論」も含めいろいろな「学び方」を「学ぶ」能力を身につけて頂き、自分なりの学び方をお考え頂きたく私は心から希望します。

一番大切なのは、自分自身で「学び方」を「学ぶ」ことです。

Q：なぜですか。

A：(１)現代は、「グローバル化」した「知識社会」だからです。皆様が「本」や「新聞」を毎日のように熱心にお読みになり、また、学校の先生やいろいろな方々のお話を聞き、見聞を広めれば広めるほど、この世の中は国境(国と国との境)がどんどんなくなり、また、知識や情報、技術がものすごい勢いで進歩していくことがよくわかります。その中で、自分の生きがいや社会的な使命を見出して、様々な場所で勉強をし、仕事をし、社会的な活動をし、自分の生活をする場合には、テーマに沿った学び方があります。学校つまり小学校・中学校・高校・大学・短大・専門学校・大学院での勉強は、その基礎的な準備です。

(２)学校で学ぶ間に「学び方」を少しずつでも身につけ、社会に出て自分で学ぶときに十分役立ててもらいたい。「学習の 3 段階理論」は、自分の力で学ぶための一番簡単、基礎的な「方法」

(やり方)を具体的に示したものです。開倫塾で学ぶ期間に少しでも Learning To Learn(「学び方を学ぶ」こと)に関心を持ち、自分なりの学習の方法を身につけてもらいたく心から希望します。

自分の未来は自分で切り拓く、「自己責任」「自助努力」のためには、「自己学習能力の育成」が大切と開倫塾では考えます。

開倫塾は今年の秋に創業 30 周年を迎えますが、私自身が栃木県足利市に開倫塾を創業した時からこの考え方でスタートし、この考え方は今でも少しも変わることはありません。

塾長通信の目的・ねらいは何か。

Q：この開倫塾塾長通信は、開倫塾ニュースといっしょに毎月発行されているようですが、なぜこのような通信を毎月発行しているのですか。

A：「自己学習能力」を、塾生の皆様に身につけてもらいたいからです。何回も申し上げて恐縮ですが、開倫塾は今から 30 年前に創業され様々な経験を積み上げて今日に至りましたので、皆様にお伝えすべきことはたくさんあります。

私は、毎月巻頭言を書かせて頂き 20 年を過ぎましたが、以前書いたものの中にも、皆様の参考になるものはあると思います。

また、私はいくつかの団体に入っており、そこで発表させて頂いたものや、学校や教育委員会等でお話させて頂いたもの、新聞社や雑誌社から依頼を受けて執筆した原稿の中に、この塾長通信をお読みの塾生の皆様、保護者の皆様、地域社会の皆様のお役に立ちそうなものもあるかもしれませんので、あわせて毎月 1 回皆様にお届けさせて頂いております。

私の勉強が足りないために、非常にバイアスのかかった片寄った見方が多いかもしれませんが、もしかしたらこのようなものごとの見方もあるということで、御高覧、御批判を賜れば幸いです。

今月も、以前に書いたものと最近書いたものとをあわせてお届けいたします。なお、開倫塾のホームページ(www.kairin.co.jp)の中にある林明夫のコーナーには私の書いたものがすべて掲載されておりますので、時間のあるときにでも是非御覧ください。

学校から教科書を頂いたら－徹底的に予習してしまおう－

Q：新学年になって学校から教科書を頂いたら、どうすればよいのですか。

A：(林明夫：以下省略)「学校で新しい教科書を頂いたその瞬間から、徹底的に予習してしまおう」、これが私の考えです。

Q：えっ！学校での授業が始まる前に、教科書を予習してもよいのですか。

A：誰に遠慮することなく、どんどん予習して下さい。１科目だけでもよいですから、ゴールデンウィークが終わる頃くらいまでに、教科書１冊を全部終わらせることをお勧めします。

Q：例えば、英語はどのように予習したらよいのですか。

Ａ：(１)教科書の本文を、１課から大きな声を出して何回も読むことです。教科書の本文が入っているＣＤやＭＤを自分で購入して聴いたり発音記号を調べたりして「正確な発音」を知り、そのうえで大きな声で正確に発音しながら、何回も、何十回も、何百回も教科書の本文を読むこと。英語を見たら、声に出して読む習慣を身に付けることが、英語上達の第一歩です。

(２)意味のわからない単語や語句があったら、辞書を使って調べ、調べた内容を要領よくまとめて、単語帳に記録すること。「意味調べ」と「単語帳づくり」をお勧めします。

(３)新しい単語や語句の意味を調べ、単語帳に記録したら、「書き取り練習」も十分にすることが大切です。正確に発音しながら何十回も書き取り練習をして、「手が覚える」まで十分に練習すること。今までに習ったことのある単語や語句で、意味はわかっているけれども正確には書けないようなものも、十分に書き取り練習をすることです。

(４)よく読めるようになり、一つ一つの単語や語句の意味がわかり、それらが書けるようになっても、文章全体の意味がよくわからないこともありますね。新しい課に出てくる文法事項を教科書や参考書で調べることも、大切な予習です。文章全体がどのような意味なのかをつかむために、細かいところまで注意をしながら読み、一つ一つの文の意味をノートに書いてみましょう。

　よくわからないところには、自分なりのわからない印(マーク)をつけておくこと。よくわからないところを予めはっきりさせて、問題意識を持って授業に臨むことが、予習の大切な目的でもあります。

(５)一つ一つの文の意味が大体わかったら、文章全体をブロック体か筆記体で正確に書き写すこと。正確にひたすら書き写すことです。教科書にあるようなよい文章を、正確にひたすら書き写すことも、大事な語学学習です。

(６)ここまでできたら、教科書に出てくる文章を全部暗唱し、丸暗記することです。教科書に載っている文章は一つ残らずスラスラ口をついて出てくるようにする、つまり暗唱してしまうこと。何も見ないですべて書けるまでにすること。どちらも正確にですよ。

　つまり、ＣＤやＭＤなどで正確な英語を聴くこと、発音記号などを調べることによって一つ一つの単語や語句が正確に発音できること、文章が正確に読めること、正確に書けること、何も見ないで正確に言えることが大切です。

Ｑ：予習でそこまでやるのですか。

Ａ：はい。(1)～(6)までを手を抜かずに徹底的に行ってから、強い問題意識を持って学校の授業に出て下さい。必ず、よい結果が得られます。

(７)これらに加えて、学校の教科書に沿ったＣＤやＭＤなどの視聴覚教材を、一度学校で学んだ部分や予習の済んだ部分だけでも、毎日のように　a 聴き流すこと　b 聴きながら発音すること(影を追うように発音するので「シャドウィング」といいます)　c 書き取り(ディクテーション)練習することなどをしながら、d 反復再生することです。

Q：最後に一言どうぞ。

A：英語と同じように他のすべての教科書についても、①声に出して正確に読む ②ノートに意味を調べる ③書き取り練習をする ④計算練習をするなどの「予習」を、誰に遠慮することなくどんどん積極的に、徹底的に行って下さい。

よい成績を取るためには、好きな科目だけでもよいですから、徹底的に予習をすることです。頑張って、新学年のよいスタートを切って下さい。

この予習の方法は、どのような分野の勉強にも活用できます。そして、一生涯使えるものです。開倫塾の塾生である間に、このような自分で学習する能力、つまり「自己学習能力」を身に付けて頂くことが開倫塾の教育目標です。自分のこととして、十分に参考になさって下さい。

＊この英語学習法の内容は、斎藤兆史著「これが正しい！英語学習法」ちくまプリマー新書、2007 年１月 10 日刊、P.78 ～ P.111 を参考にしました。皆様も、栃木県出身で東京大学助教授の斎藤先生の本を購入し、実行して下さい。

開倫塾ニュース 2007 年 4 月号巻頭言－ 2007 年 2 月 18 日林明夫記－

中間試験や前期試験で、全科目１００点を取ってしまおう
－定期試験は狭く深くに徹して満点を目指そう－

Q：開倫塾は「勉強の方法」を指導してくれる塾だそうですね。とりあえず、間近に迫(せま)った１学期の中間試験や前期試験でよい点数を取るための「勉強の方法」を教えて下さい。

A：(林明夫：以下省略)最も大切なことは、「志(こころざし)」を高く持つことです。定期試験であれば全科目とも 100 点満点を取ってしまうぞと「決意」することです。「志」が低く、80 点取れればいいやと思っていたのでは、よくても 80 点しか取れません。

「志」が高ければよい点が取れ、低ければよい点が取れません。「志」次第で結果が決まります。

人生というのはそのようなものであることも知って下さい。

Q：わかりました。私も全科目で100点満点を取りたいので、全科目100点を取ってしまうぞと「志」を高く持つことに決めます。

A：素晴らしい決断ですね。決断こそが大事です。尊敬に値します。

Q：具体的には、どのようにしたらよいのですか。

A：「狭く深くに徹する」こと。これが、中間試験や前期試験などの定期試験で 100 点満点を取る秘訣です。

Q：「狭く深くに徹する」とは、どういうことですか。

A：学校の定期試験は、予め出題範囲が示されます。示されない場合でも、学校の先生の授業の進み具合をよく観察していれば、どこまで出題されるか大体は予想できます。

第１回目の定期試験は、４月から試験期日直前までに学校で習う内容がテスト範囲ですから、各科目とも数十ページしかありません。

この数十ページを、今日から試験問題が配付される直前まで徹底的に勉強すればよいだけです。

Q：徹底的に勉強するとは、どのようにすることですか。
A：①「教科書」に書いてあること、②「副教材」に書いてあること、③「学校の授業で取ったノート」に書いてあることを、「一語残らず、何もかもすべて覚えてしまうこと」です。

Q：テスト範囲の①「教科書」、②「副教材」、③「ノート」に書いてあることを、「一語残らず、何もかもすべて覚えてしまうこと」ですって。そのようなことができるのですか。どのようにして覚えるのですか。
A：次の３つのステップを確実に踏めば、誰でも必ず一語残らずすべて覚えられます。
(１)まずは、テスト範囲のすべての事項を「大きな声で読む」こと。つまり「音読」することです。すべての科目を、大きな声で、はっきりと、ゆっくりと、噛みしめながら、何回も、何十回も、何百回も読むことです。
　何回も、何十回も、何百回も読んでいるうちに、だんだんと、そうか、そうだったのかと内容がよくわかってきたり、身にしみいるように入ってきます。「音読」が一番大事です。

(２)次に、声に出してよく読み込んだ内容について、「書いて、書いて、書きまくる」こと。つまり「書き取り練習」をすることが大事です。テストでは、正確に書けない限り点数にはなりません。「楷書(かいしょ)」で「正確」に書く練習をしましょう。自分独自の「くずし字」や「マンガ字」では点数がつかないことも多いので、全科目とも「楷書」で書くこと。

(３)第３番目に、全科目とも、すべての問題について、問題を見た瞬間に正解がパッと答えられ、正確に書けるまで「練習」を繰り返すこと。
　一度やった問題を、繰り返し繰り返し何十回もやり直す。その都度ノートや紙に問題と正解を正確に書く練習をすること。(何回もやり直すので、絶対に教科書や副教材に答えを書き込まないことがコツです。)
　以上の(１)から(３)までを、この私の文章を読んで 100 点満点を取ってしまおうと「決意」したその日からスタートすれば、今までの成績には全く関係なく、どんな学校でも、誰でも、定期試験で 100 点満点を取ることができます。

Q：そうですか。最後に一言どうぞ。
A：この勉強の方法は、開倫塾の塾生の皆様が将来どのような学校で勉強するときでも使えるものです。
　特に、新しい科目ばかりでなく、新しい仕事に取り組むときに絶大な威力を発揮します。開倫塾の塾生である間に確実に身に付けて下さいね。
　例えば、新しい仕事を覚えるときに、先輩や上司からいろいろなことを教わりますね。仕事がよくできるかできないかは、教わったことをとりあえず一語残らずメモに取り、そのメモを完全に身に付けて、仕事に活かせるかどうかで決まります。
　教えて頂いたことを、一語残らず正確にメモをし、それを何十回、何百回も「音読」し、「正確」に「楷書」で書けるまで書き取り練習をする。

このようなときはこのようにするとよいと、仕事の場面場面ごとの対応を覚え込む。「完全な仕事」をするためには、「メモ取り」「音読」「書き取り」「問題練習」が欠かせません。

このように、この「狭く深くに徹した勉強方法」は、学校の勉強だけではなく、仕事をするときにも役に立ちますよ。

＊この狭く深くに徹した勉強方法は、東京大学や慶應義塾大学など、最も難しいと言われる大学でよい成績を取るときにも、絶大な威力を発揮することはもちろんです。

開倫塾ニュース 2007 年 5 月号巻頭言－ 2007 年 3 月 19 日林明夫記－

「練習、練習、また練習」で偏差値６０突破を
－「音読」「書き取り」「計算」練習の徹底が、基礎学力「定着」のポイント－

Q：「練習、練習、また練習で偏差値60突破を」とは、どういうことですか。

A：(林明夫：以下省略)学校や開倫塾の授業で一度「うんなるほど)」と「理解」した内容について、「音読」「書き取り」「計算」などの練習を徹底的に行い基礎学力をしっかり「定着」させれば、誰でも偏差値 60 突破ができるということです。

Q：えっ、本当ですか。本当に誰でも「練習、練習、また練習」で偏差値60突破ができるのですか。

A：はい。練習は、不可能を可能にします。「練習、練習、また練習」で、偏差値 60 突破は可能です。

Q：どのようにしたらよいのか教えて下さい。

A：例えば、開倫塾の授業が終了してもすぐには帰らないで、開倫塾の先生と保護者に許可をもらったうえで、何十分か「練習、練習、また練習」をしてみて下さい。

＊但し、防犯上の理由から夜 10 時 30 分以降まで塾生が開倫塾に居残ることは絶対禁止です。たとえ高校生でも、「練習、練習、また練習」をやってよいのは夜 10 時 20 分までとします。10 時 20 分になったら帰る仕度をして、どんなことがあっても 10 時 30 分までには開倫塾から退出して下さい。これだけは、必ず守って下さい。塾生同士のおしゃべりも絶対禁止です。ひたすら練習に励んで下さい。

(１)まずは、開倫塾でその日に学習した内容を小さな声でボソボソと正確に「音読」する練習をしましょう。英語や国語はもちろんのこと、理科や社会、数学も、開倫塾のテキスト、副教材、プリント、授業中にとったノートなどその日に学習したものをすべて何度か正確に「音読」しましょう。学習したばかりなので、「音読」練習している間にスーと頭の中に入ってきます。「音読」をしながら、全科目とも大切なところはそっくりそのまま覚える、つまり何も見ないでスラスラ言えるまでにしましょう。「声を出して読む」ことを通して、「何も見ないでスラスラ言えるまでにする」ことが、「練習」の第 1 です。

(２)次に、「音読」して何も見ないでスラスラ言えるまでになった内容について、全科目とも何も見

ないで正確に書けるようになるまで「書き取り」練習をすることです。書き順も間違えないようにします。漢字や英語の難しい語句は、「書いて、書いて、書きまくる」くらいの勢いで「書き取り」練習をしましょう。中学３年生や高校生こそ「書き取り」練習をする必要があります。難しい語句がどんどん出てくるのが、中学３年生や高校生の勉強だからです。「書き取り」練習を熱心にしなければ、少しも正確に覚えられません。「書き取り」練習のための用紙が「真っ黒」になるくらい熱心に、正確に書く練習をしましょう。

①この中学３年生から高校生という大切な時期に「書き取り」練習をしておかないと，大学生や社会人になっても正確に文字が書けないことになります。大切な語句・難しい語句は、見ただけではいつまでたっても正確に書けません。正確に「書いて、書いて、書きまくる」が、「練習」の第２です。

②社会や理科の地名や年号、実験や観察にとって大切なポイントも、正確に書けるようにしましょう。地図や人間の解剖図なども、描けないよりはある程度は何も見ないで描けたほうがよいのです。「教科書に書いてあることは、図表も含めてすべて書けるようにする」ことを心掛けて下さい。

(３)最後に、開倫塾のテキストに載っている問題で、その日の授業中にやった計算を含めたあらゆる問題を一問残らずすべてもう一度やり直してみましょう。できれば同じ問題を５～６回やり直し、問題を見た瞬間に条件反射で正確に解答できるまでに練習することが、「練習」の第３です。

Q：やることが結構ありますね。

A：はい。開倫塾の授業が終わったあと、以上の(１)～(３)の「練習」を確実にやっていくと、「アッ」という間に帰宅時間になってしまいます。やり残した「練習」は、自宅で寝る前や翌日に練習して下さい。どうしても家でできなければ、早目に開倫塾に来て「練習」してみましょう。確実に「練習によって基礎学力が定着」します。

Q：開倫塾でいう「練習、練習、また練習」は、「詰め込み勉強」ですか。

A：違います。そのことの意味もよくわからないものをただ覚えるというのであれば、「詰め込み勉強」です。しかし、一度「うんなるほど」と十分「理解」したあとに行う「練習」は、「詰め込み勉強」ではありません。十分「理解」した内容の「定着」をはかるのが、開倫塾でいう「練習、練習、また練習」です。

Q：最後に一言どうぞ。

A：以上のような手順で、一度「理解」した内容について「練習、練習、また練習」を徹底的に行うことを、開倫塾の塾生である間に身に付けて下さい。将来どのようなことを勉強する場合にも、必ず基礎的な内容は確実に身に付けなければなりません。そのときに役に立ちますよ。このように一生使える勉強方法を開倫塾で身に付けて下さい。

　そうそう、このやり方で「練習、練習、また練習」すれば、全員が偏差値 60 を突破します。偏差値 60 突破は、入学できる学校の選択肢を一気に広げることを意味します。自分の力で自分の人生の選択肢を広げるためにも、まずは「練習、練習、また練習」です。

　頑張りましょう。

開倫塾ニュース 2007 年 6 月号巻頭言－ 2007 年 4 月 17 日林明夫記－

高２、中２、小５生も受験校の早期決定をー入試合格を確実にするためにー

Q：希望校合格を確実にするにはどうしたらよいのですか。

A：(林明夫：以下省略)何のために進学するのかという目的をはっきり持つことが第一。人の生命を助けたい、大切にしたいから、医師や看護師、薬剤師、介護士になる。世界の平和、世界や社会の持続的な発展に役立ちたいから、外交官や政治家、研究者になる。ものづくりやサービスの提供によって、日本や世界の人々に豊かな生活を送り届けたいから、技術者(エンジニア)やホテルマン、銀行員、スーパーマーケットの店員になる。ITC(情報技術コミュニケーション)により人々の生活を便利にしたいから、システム・エンジニアを目指したい。人々の安全を守るために、自衛官、警察官、消防士になりたい。人々の住む家や建物を作ったり、鉄道や道路、橋、ダム、港湾などを作ったりすることで、人々に住まいや働く場、移動する場を提供したいから建築家になりたい。

　他にもたくさんあるでしょうが、このような様々な目的を叶えるためには、学校に行って基本的な勉強をし、基礎学力の他にいろいろな知識や技術、能力を身に付ける必要がある。だから、大学や高校、公立中高一貫校、私立中学校に進学する。

　このように考えることが、最も望ましいと考えます。是非、カッと目を見開いて、自分はどのような生き方がしたいのか、何のために進学したいのかという進学の目的をはっきりさせて下さい。その上で、１日も早く受験校を具体的に決めて下さい。

Q：入学試験まではまだ２年近くある高校２年生、中学２年生、小学５年生も、この時期にもう受験校を決めたほうがよいのですか。

A：勿論です。「私は、２年後この学校に入学する。そのために今勉強するのだ。」と、何のために勉強するかがはっきりしていればいるほど、勉強に集中でき、熱心に取り組めます。

　ただ何となくダラダラと机に向かうのと比べれば、月とスッポンくらい差がつきます。

　全員が入試を受ける高校２年生と中学２年生、公立中高一貫校や私立中学校入試を目指す小学５年生は、１日も早く、受験校を明確に決めることをお勧めします。

＊来年１月に受験が迫った高校３年生、中学３年生、小学６年生で受験校がまだ決まっていない人は、自分の人生を真剣に考えた上で、「１日も早く」受験校を決定すること。受験校が決まらないと、受験勉強に真剣さが不足し、不合格になる可能性が高まります。

Q：２年間あれば、どんなに難しい学校でも合格できますか。

A：偏差値が 20 以上離れていると合格は少し難しいかもしれませんが、離れているのが 15 ～ 20 くらいなら、２年間あれば合格は可能です。今の偏差値が 45 の人でも、今日から２年間真剣に机に向かえば、大学入試でも、高校入試でも、私立中学校入試でも、偏差値 65 の学校に合格することは可能です。(但し、首都圏の有名私立中学校入試は除きます。)

Q：本当ですか。２年間あれば、今の自分の偏差値よりも15～20も偏差値が上の学校に合格できるの

ですか。

A：はい。十分可能です。但し、一つだけ条件があります。今日にでも開倫塾の先生に相談して、どのようにしたら合格できるかをアドバイスしてもらった上で、自分でもよく勉強することです。

開倫塾のホームページ(www.kairin.co.jp)の中にある私のコーナーの「開倫塾ニュース」にも、勉強の方法がたくさん紹介してありますので参考にして下さいね。

Q：具体的には、どのようにしたらよいのですか。

A：開倫塾の教材を、スミからスミまで何回も何回もやり直すことです。例えば、算数や数学は、開倫塾の教材をスミからスミまで何回か勉強するだけで、誰でも偏差値は 70 以上になります。

なぜ偏差値が上がらないかと言えば、スミからスミまで何回もやり直さないからです。「理解」はある程度していても、「定着」が不完全だと「得点」にはならず、偏差値は上がりません。開倫塾の教材の徹底的な「音読練習」「書き取り練習」「計算(問題)練習」が、偏差値の大幅アップを約束します。そのためには、勉強時間の確保が不可欠です。是非やってみて下さいね。

開倫塾ニュース 2008 年 6 月号巻頭言－ 2008 年 4 月 15 日林明夫記－

来年春の希望校合格のために－「自覚」を持って、1年間机に向かおう－

Q：今年の入試も終わりました。塾長は、合格・不合格は何によって決まるとお考えですか。

A：(林明夫：以下省略)「自覚」を持って勉強したかどうかで決まると、私は確信します。

Q：「自覚」とは何ですか。

A：「自分自身の立場、状態、能力などをよく知ること、わきまえること」を「自覚」と言います。

Q：何を「自覚」したらよいのですか。

A：来年の１月には、高校３年生はセンター試験を、中学３年生は私立高校入学試験を、小学６年生は私立中学校や公立中高一貫校の入学試験を受験するということを「自覚」すること、つまり「よく知る」ことです。

「本番の入試までは、あと９か月しかない」ことを「自覚」することです。

Q：４月に新学年になったと思ったら、もう入試までは９か月しかないのですね。

A：そうです。入学試験までに、皆さんに与えられた期間はあと９か月なのです。辛いかもしれませんが、まずはそのことを「自覚」して下さいね。

但(ただ)し、入試は、来年１月だけではなく、県立高校入試は３月初旬、大学入試は２月から３月にかけても行われます。

Q：入学試験まであと９か月しかないことは「自覚」でき、「よくわかり」ました。「自覚」とは、自分自身の立場つまり入試まであと９か月しかないことを知ると同時に、自分自身の状態や能力などをよく知ることであると先ほどおっしゃいましたが、どういうことですか。

A：開倫塾では、自分の行きたい学校を自分にとっての「一流校」と呼んでいます。皆様一人ひとり

にとっての希望校、つまり一流校とはどこか。９か月後には入試を迎えるのですから、まずはそれをはっきりさせて下さい。皆様にとっての一流校に合格するためにはどのくらいの成績が必要なのか、つまり、どのくらいの「偏差値」が必要なのかを、開倫塾や予備校などの資料を用いて調べて下さいね。わからなければ、開倫塾の先生に相談して下さい。

それから、自分自身の現在の状態や能力、具体的に言えば学力、特に偏差値をよく知ることが大事です。例えば、行きたい学校の合格最低偏差値が 55 で、今の自分の偏差値が 50 でしたら、５不足しますので、今のままでは合格できません。このことをよく知る、「自覚」することが大事です。

今の自分の偏差値が 60 であっても、行きたい学校の合格最低偏差値が 60 であるなら、これは合格最低ラインですので合格するかしないかは 50 %の確率となります。つまり、不合格の場合が半分と言えます。このことをよく知る、「自覚」することが大事です。

Q：希望校の合格最低偏差値と現在の自分の偏差値とを見比べると、だんだん厳しくなってきました。合格するには偏差値をあと５～10上げなければならないようですが、９か月で大丈夫でしょうか。

A：受験生は皆さん同じ状態なので、「自覚」さえ十分にすれば大丈夫です。

Q：この他に、「自覚」したほうがよいことはありますか。

A：自分は何が得意なのか、何が不得意なのかをはっきり「自覚」して、得意なものはどんどん伸ばすこと。不得意なものは、よくわからないところまで遡(さかのぼ)って、基礎的なことからやり直すこと。希望校に入学して自分は本当に何がしたいのかをよく考えること、できればはっきりさせることです。希望校に入学後の自分のしたいことがわかれば、情熱やエネルギーが自然と出てくるからです。

できれば、人生の目標を見つけ、そのために希望校で十分に勉強する。悔(く)いのない充実した人生を送るためには、まずは本当の自分を探し出し、自分自身をよく理解すること、つまり「自覚」することが大切です。

＊この項は、私の尊敬するアフラック(アメリカンファミリー保険)の創業者、最高顧問である大竹美喜著「仕事で本当に大切にしたいこと－自分を大きく伸ばすために－」かんき出版 2004 年刊、214 ページを大幅に引用させて頂きました。

Q：よく「自覚」したあと、具体的にはどうすればあと９か月で偏差値を５～10上げることができますか。最後に教えて下さい。

A：学力の高い人は、よく考えながら「読書(新聞を毎日１時間以上読むことを含めて)」をしています。入試の問題文は長いですから、長い文章を正確に読み込む上でも読書(新聞を含め)は必要不可欠です。ですから、まずは「読書」です。次に、開倫塾の「学習の３段階理論」を参考にして、自分自身で勉強の仕方をよく学び身に付けることです。英語では Learning To Learn(ラーニング・トゥ・ラーン、学び方を学ぶ)と言いますが、このスキルを身に付けること。開倫塾ではこれを「自己学習能力の育成」と呼んで、教育目標としています。

学校や開倫塾の授業、または自分でする「予習」や「自習」などで、一度「うんなるほど」と十分「理解」したことを、「音読練習」「書き取り練習」「計算(問題)練習」などを何十回も何百回も徹底的に繰り返し隅から隅まで完全に身に付けること、暗記することで、誰でも偏差値は５～ 10 上がります。一度理解したことを「読んで、読んで、読みまくる」、「書いて、書いて、書きまくる」、

「ひたすら計算(問題)練習をし続ける」ことで、偏差値 70 以上を取る普通の生徒はたくさんいます。

受験勉強は、よく「自覚」をした上で、新聞を含めた読書と３つの練習をやるかやらないかで結果が決まります。９か月後に悔いを残さないよう、毎日を大切に過ごして下さい。

家庭で自習のできない人は、授業時間以外の曜日や時間に開倫塾の空いている机で、校長先生、担任の先生、保護者の方の承諾のもと、夜 10 時 30 分まで自習することを許可します。ご相談下さい。但し、10 時 30 分以降は、防犯上絶対禁止です。

開倫塾ニュース 2008 年 5 月号巻頭言－ 2008 年 3 月 19 日林明夫記－

「定着」で学力の飛躍的向上を－「音読」、「書き取り」、「問題練習」の徹底がポイント－

Q：成績を飛躍的に向上させるにはどうしたらよいのですか。

A：(林明夫：以下省略)まずは、学習した内容を「うん、なるほど」と「理解」することが大切です。「うん、なるほど」と「理解」をするためには、姿勢を正し、両手を机の上に置いて先生の目を見ながら、学校や開倫塾の先生の授業を真剣に聴くことが大切です。

「欠席」、「遅刻」、「早退」、「忘れ物」、「おしゃべり」、「ケータイ」をしたり、「他のことを考えている」と、「理解」は妨げられます。「トイレ」を我慢していても「理解」は妨げられますから、我慢せずに先生の許可を得てトイレに行って下さい。

Q：わかりました。まずは「うん、なるほど」と「理解」することですね。「理解」するだけで、成績は飛躍的に向上するのですか。

A：「理解」するだけでも少しは向上するでしょうが、「飛躍的」に向上することは余りないように思います。

Q：では、どうしたらよいのですか。

A：「うん、なるほど」と一度「理解」した内容を確実に身に付ける、つまり「定着」させることです。学校や開倫塾の授業時間は限られていますので、先生は皆さんに学習すべき内容を「うん、なるほど」と「理解」してもらうのに大半の時間を使ってしまい、「理解」した内容すべてを「定着」させる時間を取ることは難しいと思われます。

授業中だけではすべての内容の「定着」までできないことが多いので、自分の力でやる以外に方法はありません。

Q：自分の力でやる方法を教えて下さい。

A：できればその日のうちに１回は、教科書や問題集、ノートを机の上に出して、学校や開倫塾の授業で学習した内容を「声に出して読む」、つまり「音読」することをお勧めします。英語や国語、社会はもちろん、理科や数学も、その日の授業を思い出しながら教科書や問題集、ノートをゆっくり大きな声で「音読」しましょう。できれば、何回も何回も大きな声で「音読」しましょう。

小学生や中学生、高校生の年代は、人生の中でも記憶力が抜群によい年代ですので、大きな声を出し何回も「音読」しているうちに、一度「うん、なるほど」と「理解」した内容を何も見ずにスラスラ言えるようになります。

さらに言えば、何も見ずにスラスラ言えるようになるまで大きな声を出して「音読」すること、これが「定着」の第一歩です。

Q：「音読」をして何も見ずにスラスラ言えるようになったら、次はどうしたらよいのですか。

A：「定着」のために次にすべきことは、「書き取り練習」です。「書き取り練習」ですから、字を崩さないで正確に書く練習を、書けるようになるまで徹底的にして下さい。

すべての教科で、教科書に出ている語句は一語残らず、字を崩さずにきちんと正確に書けるまで「書き取り練習」をして下さい。「書き取り練習」中も、書いている語句を大きな声に出して「音読」すると、学習効果は高まります。

「漢字の点画を崩さずきちんと書く書き方」を「楷書」と言います。漢字は、「楷書」で正確に書けるまで「書き取り練習」をしましょう。

英語は、語句がブロック体または筆記体で正確に書けるように何十回、何百回もスペリングの「書き取り練習」をしましょう。「書き取り練習」をしない限り、正確に覚えられません。

Q：「音読」と「書き取り練習」が済んだあとは、何をしたらよいのですか。

A：計算練習をはじめとする「問題練習」をすればよいのです。一度学んだ学校の教科書や開倫塾の教材の中にある問題を、最低３回、できれば５～ 10 回やり直してみること。問題を見た瞬間に条件反射で正解が出せるまでにすることです。

余力のある人は、開倫塾の教材に出ているすべての問題を解いてみること。開倫塾の教材は、すべてやりきれば偏差値 70 以上まで達成できるように工夫されています。ですから、余力のある人はすべてやり終えて下さい。

Q：最後に一言どうぞ。

A：一度「うん、なるほど」と「理解」した内容を、自分の力で「練習、練習、また練習」することだけが、成績を確実に飛躍的に向上させる方法です。

受験生も受験学年ではない塾生も、これを本気でやってみて下さい。成績は必ず飛躍的に向上します。

開倫塾ニュース 2007 年 3 月号巻頭言－ 2007 年 1 月 9 日林明夫記－

Q：ローマには何をするために行ったのですか。

A：(林明夫：以下省略) 2009 年 2 月 20 日・21 日に、ローマにある国連の一機関の世界食糧計画(World Food Program)本部の会議場で開かれたアスペン研究所ローマ主催の「アスペン・フォー G8」という G8 サミットに向けた国際会議に招待されたためです。

イタリアでは 2009 年 7 月に G8 サミットが開催されますので、アスペン研究所のローマ支部では、イタリア政府の要請と全面協力で G8 サミットで討議される主な内容についての国際会議を開催したようです。

参加者は約 100 名。うち半数はイタリアからで、使用言語は英語とイタリア語。両言語について同時通訳がありました。コフィ・アナン前国連事務総長、ガリア・OECD 事務総長はじめ、IMF、世界銀行など国際機関からの代表も多かったようです。日本からは私一人の参加でした。司会は、G8 サミットでシェルパを務めるイタリアの外務大臣が務めました。

Q：どのようなテーマが議論されたのですか。

A：「持続可能な資本主義(Sustainable Development)」とは何かをメインテーマに、「金融・商品・公益(finance, commodities, the common good)」が話し合われました。

(１)グローバル化された社会での最初の危機

(２)失敗から学ぶこと、新しいグローバルな政策とは

(３)気候政策とエネルギーの安全保障、相乗効果(シナジー)を求めて

(４)食糧危機、危機から持続可能性に向けて

以上、4 つのセッションが開かれました。昨年の洞爺湖サミットと同様、アフガン問題やアフリカ問題、気候変動問題も話し合われました。しかし、資本主義という枠組みを維持しながら、どうこの経済危機を克服するか、一時国有化はやむを得ないにしても国有化後の金融機関をどう建て直すかがメイン・テーマでした。中央銀行や証券取引所、格付機関のあり方、あらゆる機関についてのコーポレイトガバナンスのあり方も議論になりました。

Q：林さんは、この経済危機に企業はどう対処すればよいとお考えですか。

A：全社一丸となってこの大不況に戦略的に取り組まない限り、「倒産」を免れることはできない。大不況のときこそ「企業は原則倒産」が現実化するものと考えます。

企業経営者は大企業・中小企業を問わず、この大不況下倒産を免れるためにありとあらゆる試みをします。経営者自身が個人保証をして金融機関から資金を調達している企業ほど、早急に「業務の改善」、「制度の見直し」、「不採算部門からの撤退」、「業態変更」、「MandA」をしないと、売上の大幅不振、受注の大幅減のため資金繰りが一気に悪化し、「企業は倒産」、「経営者は破産」の状況が迫ってきます。

そこでの最大の問題は、もうこれ以上人を雇うことができない、つまり、雇い止め、働く側から言えば「失業」の問題となります。大不況が続けば続くほど解雇は柔軟性を帯び、職を失う人に対する「保障(Security, セキュリティ)」の重要性が増すと私は考えます。

企業経営者は、雇用を守るために最大の努力をすべきですが、売上や受注が激減し続け会社の存立すら危うくなれば雇用の維持は困難を極めますので、職を失いつつある方、職を失った方への保障を予め十分政府や自治体、地域社会は考えておくべきと思います。

Q：どうしたらよいと考えますか。

A：最大の大不況対策として、職を失いつつある方、職を失った方、今は仕事をもっていないがこれから仕事に就きたい方への支援を行うべきかと考えます。

例えば、失業中の方への所得は現役時代の固定給の 95 %まで保障すべきと考えます。その代わり、失業中は「就業支援のためのバウチャー」を発行し、仕事に就くのに役立つ「職業訓練」を必ず 1 日 8 時間、週 40 時間以上受講することを義務づける。

読み書きや計算、漢字のできない方は学習塾でバウチャーを用いることも可とする。予備校、私立学校、公立学校、大学、短大、専門学校、大学院などの学校や公民館、その他ありとあらゆる社会教育施設でのそのバウチャーの使用を認める。

「コミュニティカレッジ」の設立を促進する。できれば、失業中の方や職を求める方が「社会で必要な知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」を身につけることを「社会総がかり」で支援することが大事と考えます。

社会に出て役に立つことを教えられる人は「山ほど」います。とりわけ、元「教員」であった方々で元気な方は、何十万人、何百万人もこの世の中には存在します。また、「教員」の経験はなくとも「教授法」さえ少し身につければ、仕事上のスキルを教えられる人も「山ほど」います。そのような方々と余り活用されていないありとあらゆる教育施設を「総動員」したらどうでしょうか。

ラインの止まってしまった工場でも、スキルのある方が、製造業の基本をものづくりを目指す方に指導することも就労支援バウチャーの使い方として有意義と考えます。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者の皆様にお考え頂きたいことがありますか。

A：社会人の中にも小学校・中学校・高校の内容が十分身についていない方がたくさん存在します。現代は「知識基盤社会」ですので、基礎学力が不十分では働きがいのある人間らしい仕事に就けないことも多いと考えます。社会人の再教育の場、教育機関として、就労支援バウチャーの受取機関になって頂ければ幸いです。

Q：最後に一言どうぞ。

A：インドの 25 歳以下の人口は 5 億 5 千万人を越え、インド政府は、インド社会のイノベーションを促進し、国際競争力を高め、貧困から脱却するために、今後 6 年間に 1500 の大学を設立することを決定しました。世界には「これから」という国もあるのです。

今月も、読めば必ず役に立つ一冊を御紹介いたします。山田済斎編「西郷南洲遺訓」岩波文庫です。ゆっくり噛みしめながら何回も「音読」すれば、大不況の下でも、日本の原点を踏まえた上で、日本の「これから」を考えるよいきっかけになると確信いたします。

－ 2009 年 3 月 22 日林明夫記－

一生勉強、一生青春－Commencement(コメンスメント)、卒業は人生のスタート－

東日本高等学院卒業式来賓祝辞資料

2009 年 3 月 9 日(月)
10:00 ～ 11:30
福島県福島市
福島テレサ大ホール

１．はじめに

東日本高等学院を御卒業の 37 名の皆様、本日は御卒業おめでとうございます。
皆様の御卒業にあたって、私の好きな言葉を 3 つお贈りします。

２．「一所懸命」

私は、「一つの所で命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組む」という意味の「一所懸命」という言葉が大好きです。

皆様は、入学以来よくこの東日本高等学院で勉強し、今日の卒業式をお迎えになりました。本当に立派です。卒業後も自分の立ち位置をはっきり決め、その場所で「一所懸命」に過ごして頂きたく希望します。

３．「田舎の３年、京の３日」

司馬遼太郎がアメリカに出掛けたときのエッセイで紹介された室町時代の言葉が「田舎の 3 年、京の 3 日」です。知的な刺激の強い京の都で 3 日間過ごすことは、刺激の少ない田舎に 3 年いるのと変わらないという意味かと私は思いました。

「一所懸命」に一つの所でがんばり続けると、マンネリに陥ることもあります。そんな時には、気分転換で自分にとっての「京の都」に出掛けると、「リズム」を取り戻せることもあります。

時々は、皆様にとっての「京の都」に出掛ける「勇気」、「チャレンジ精神」をお持ち下さいね。

４．「一生勉強、一生青春」

世界でも最長寿国である日本に生まれ育った皆様は、健康、つまり心の健康と身体の健康に気をつけ、「いつまでも若々しく生きる」と決意さえすれば、100 歳以上まで生きられる可能性が高いと言えます。自分自身の勉強の仕方を身に付け、自分の夢や生き甲斐の達成のために、死ぬまで勉強をし続けて頂きたい。そのような意味で「一生勉強、一生青春」という言葉をお贈りします。

５．おわりに

先ほど渡辺綱理事長先生より、卒業は英語で Graduation(グラジュエーション)と言うが、Commencement(コメンスメント)とも言うというお話がありました。

英語の Commencement(コメンスメント)は開始・始めという意味と同時に、卒業式という意味もあります。卒業は人生のスタートだとの発想ですね。私も、渡辺理事長先生と同じように、卒業は人生のスタートと考えます。この東日本高等学院の卒業を素晴らしい人生のスタートにして頂くことを期待します。

以上

2009 年 3 月 9 日林明夫記－

福島県立須賀川桐陽高等学校出張授業資料
働くとは何かー働きがいのある人間らしい仕事に就くためにー

2009 年 4 月 23 日

１．はじめにー時代の大きな流れを考えるー

(１)昨年来の世界大不況と超円高はなぜ生じたのか。

(２)経済活動にどのように影響しているのか。いつまで続くのか。

(３)これから世界や日本はどうしようとしているのか。
ー世界の動き、日本の動きー

２．これからの社会で求められる能力とは何か

(１)知識基盤社会で求められる能力とは

(２)グローバル化・フラット化した社会で求められる能力とは

(３)超高齢化、大不況の社会で求められる能力とは

３．職場や高等教育機関(大学・短大・専門学校)で必要な基礎知識や学力を身につける具体的方法とは

(１)「理解」の仕方

(２)「定着」の仕方

(３)「応用」力の身につけ方

４．おわりにー人間としてのあり方・生き方を考えるー

ー一生勉強・一生青春ー

・社団法人経済同友会、幹事・宇都宮大学大学院工学研究科客員教授
・マニー株式会社(手術用縫合針製造)社外取締役・特別養護老人ホーム清明苑、理事
・栃木県社会教育委員

ー 2009 年 4 月 2 日林明夫記ー

「高井伸夫法律事務所事務所報」原稿
刑務所に教えに行ってー持続可能な社会は基礎教育からー

１．はじめに

(１)開倫塾は、栃木県を中心に群馬県・茨城県に 44 校舎を展開する創業 30 年目の小学生・中学生・高校生を対象とする 2008 年度ピーク時塾生数 6646 名の学習塾です。

(２)そんな開倫塾の塾長である私に、昨年 1 月に栃木市教育長より、栃木市にある栃木刑務所に基礎的な教科教育の指導のために開倫塾から講師を派遣してくれないかとの御依頼がありました。
　私が学生時代に犯罪学や刑事政策を学んだことを教育長は覚えておられ、もしかしたら開倫塾で栃木刑務所からの依頼を受けてくれるかもしれないと思われたようです。

(３)私は、慶應義塾大学法学部法律学科で宮沢浩一先生のゼミ生として犯罪学と刑事政策を学び、いくつもの矯正施設を訪問し、「刑事政策への市民参加」を研究テーマにしておりました。女子刑務所では歴史のある栃木刑務所で基礎的な教科教育のお手伝いをさせて頂くことは、宮沢浩一先生の下で刑事政策を学ばせて頂いた者として、また、「刑事政策への市民参加」を研究テーマにした法学徒として名誉なことと考え、即受諾いたしました。

(４)開倫塾は、「日本経営品質賞」の地方版である「栃木県経営品質賞」の知事賞を 2002 年度に受賞した企業ですので、経営の基本理念として「社会との調和」を大切な価値観として持ち、「社会貢献活動の推進」を行っております。刑務所への講師派遣も、その一つと考えました。

２．刑務所に教えに行って

(１)栃木刑務所での最初の打ち合わせで、刑務所長はとても受刑者の教育に熱心な方でしたので、その情熱がひしひしと伝わってきました。また、教育担当の刑務官の方々の受刑者の更生に対する熱い思いがよく理解できましたので、必ず一定の教育成果を出さなければと私は決意。

(２)担当責任者に、塾長直轄の超ベテランの塾長室室長を任命。対象が 20 歳代から 70 歳代までの女性の受刑者と知ったので、指導者として開倫塾のベテラン講師を選任。1 名の派遣要請でしたが、十分な教育成果を出すために 2 名派遣。2 名の先生が慣れるまでの最初の半年は、担当責任者の塾長室室長も同行して指導に当たることを決めました。

(３)このようにして、2008 年 2 月より対象受刑者 6 名への毎週 1 回 2 時間 3 か月コースの基礎学力養成講座がスタートし、1 年が経ちました。
　ベテランとはいえ、刑務所での指導は初めての先生でしたので、事前の打ち合わせは毎回十分に行いました。また、2 人の先生方の負担をできるだけ少なくし、毎週確実に指導に行ってもらえるよう教材や教具の作成はすべて開倫塾本部の塾長室のスタッフが一人ひとりの受刑者の学習の進度に合わせて行いました。

超ベテラン講師陣 3 名による、また、開倫塾塾長室事務スタッフの全面的な協力による「受刑者教育」がスタートしました。

(４)平仮名、片仮名の書き方や数の計算の仕方から、一人ひとりのレベルに合わせ指導はスタート。3 か月の間に、社会に出てからの生活に困らないように読み・書き、計算を指導。道路標識も指導。新聞や図書室の本が読めるように、手紙が書けるようになるまで頑張ろうを合言葉にしています。「躾(しつけ)教育」の必要な受刑者もいますので、「躾」の中身である「美しい立ち居振る舞い」、「敬語表現を含む言葉遣い」についても積極的に指導。「あいさつ」、「おじぎ」の仕方も教えています。

(５)このような方法で 3 か月ではありますが指導を終えると、刑務所と相談の上、「3 か月コース修了証」を修了式で手渡します。私や塾長室室長が修了証を手渡し、「よく頑張りましたね」と励ましの声をかけると、目に涙をためる受刑者もいます。

３．おわりに

(１)文字がよく読めず、計算がよくできず、道路標識も十分わからず、手紙もよく書けないまま、一度罪を犯し刑務所から社会に出た人が、働きがいのある人間らしい仕事に就ける可能性は極めて少ない。働きがいのある人間らしい仕事に就けなければ、刑務所にもどる可能性は極めて高いと私は考えます。

(２)だからと言って、必要な基礎教育を行うだけの十分なスタッフは現代の刑務所にはいないようにも思えます。

(３)ただ、世の中には、この状況をよく「理解」してもらえば受刑者の教育の担い手になってもよいと考える人は「山ほど」いると考えます。持続可能な社会の形成の一環として、「受刑者への基礎教育」を「社会総がかり」で行うことを最後に提言させて頂きます。

(社団法人 経済同友会 幹事)

－高井伸夫法律事務所事務所報原稿 2009 年 3 月 18 日林明夫記－

新学年の準備－捨てなければ得られない－　2009 年 4 月 4 日(土)放送内容資料

CRT 栃木放送『開倫塾の時間』

１．はじめに

(１)目標をもって新しい学年をスタートしよう。

(２)自己責任、自己責任の考え方で自分自身を律しながら一年間を過ごそう。

①「経営」とは、営みを経て目標・目的を達すること

②自分自身の行動を「経営」してみよう。

２.「自覚」をもって一年を過ごそう

(１)「今年はこの点に注意して勉強や活動をしよう」ということをはっきり「自覚」しよう。

(２)「今年はこの自分の得意分野、強み・よさをもっと、もっと伸ばそう」ということをはっきり「自覚」しよう。

３.「学び方」を学ぶことを心掛けよう

(１)「どのようにしたら効果の上がる勉強ができるのか」を考え、少しでもよいから実行しよう。

(２)一度「理解」したことを確実に身につけるにはどうしたらよいか。身につけたことを活用して、テストでよい点を取るにはどうしたらよいか。社会で役立てるにはどうしたらよいか。自分なりに考え、実行してみよう。

４．春休みにしたらよいこと－整理・整頓を－

(１)自分の部屋の片付け－何をどこに置くのか－

(２)机の上、机の中、本棚の整理－何をどこに置くのか－

(３)かばんの中の位置決め－何をどこに入れるのか－

＊捨てなければ得られない(石川洋先生)

必要なくなったものは思い切って処分することも大切。

5 つのエス「5S」を心掛けよう
・整理（せいり）
・整頓（せいとん）
・清掃（せいそう）
・清潔（せいけつ）
・躾　（しつけ）
＊開倫塾は「5S」運動を推進しています。

５．おわりに－学校から教科書を頂いたら－

(１)教科書はどんどん予習をしよう。

(２)好きな科目だけでよいから、教科書をどんどん声を出して読んでみよう。

<例>楽器の弾ける人は、音楽の教科書を手にしたらどんどん演奏してみよう。

2009 年 3 月 31 日(火)
9:30 ～ 9:40
CRT 栃木放送
両毛支局にて収録

新シンクタンクに期待する

読売新聞栃木版「とちぎ寸言」原稿　2009年4月7日掲載

栃木県の成長に今一番必要なものは何か。「シンクタンク」、つまり地域や経済、企業の成長を戦略的に政策として練り上げる「研究所」だ。

かつて、栃木県には「とちぎ総合研究機構」という全国でも有数の地域に根ざしたシンクタンクがあった。県の経済の活性化と県民生活の向上のために、県や市町村、経済同友会などの経済団体、企業などから委託を受け、また、独自にプロジェクトを組み、基礎研究を積み重ねた。栃木県の産業基盤を政策面で下支えした功績は極めて大きい。

このような中で、足利銀行が 4 月からシンクタンクをスタートすることは地域経済発展の上で有意義と考える。

栃木県経済をリードし続けた輸出主導型の製造業が危機的な状況に陥っている大不況の今こそ、産業界、栃木県、大学の三者と、マスコミ、そして何よりも栃木県に生活し、働くすべての人々が全面協力をして、新「シンクタンク」を支援すべきと考える。

栃木県の潜在能力、可能性は限りなく大きい。しかし、いつになっても顕在化しない、形となって表れない。このもどかしさ、歯がゆさ、閉塞感を感じているのは私だけではないと思う。人材育成のための研修、企業活性化のための経営サポート、観光振興等の活動が軌道に乗ったら、大不況の今だからこその本格的な調査・研究、将来を見据えた政策提言を期待したい。「道州制」「地方行財政改革」「自治体レベルの規制改革」「PPP(官民連携)」「高等教育機関の地域の発展における役割」「サービス産業の生産性向上」「農業への株式会社参入」「FTA, EPA(経済連携協定)締結後の県経済のあり方」「自動車産業の進化」「航空宇宙産業の振興」「森林政策―路網整備―」「学校教育制度改革」「外国人労働者及び移民受け入れ」「外国資本・企業の受け入れ促進」「観光政策」、そして何よりも「不況対策の膨大な予算の使い途について」などなど。

「田舎の 3 年、京の 3 日」ということばがある。どんなに「一所懸命」に、熱心に、まじめにものごとに取り組んでも、マンネリに陥ったり、越えられない壁が現れることがある。そのようなときには、知的刺激にあふれる自分にとっての「京」に出掛け自らの力でリズムを取り戻す勇気、チャレンジ精神が大切だ。新しい「シンクタンク」が栃木県における「京」の役割を果たすことを期待したい。

以上

― 2009 年 3 月 31 日林明夫記―